

Shake Hands



常滑国際交流協会 2014年11月17日発行 第105号

〒470-0837 常滑市新開町5-58 常滑商工会議所内

Eメール：tia@japan-net.ne.jp 電話・FAX：0569-34-4797

国際理解講座 住んで・見た・トルコ

国際理解講座「住んで・見た・トルコ」が9月27日（土）に陶の森資料館にて行われました。参加者は27名の参加者でした。

講師の安楽博勲さんは知多市在住で東海市と知多国際交流協会の会員です。

東海市は2005年の愛地球博でトルコ共和国とフレンドシップ事業を行いました。この事業を通じて交流が深まり2007年にブルサ市のニフェル区と姉妹提携をしました。ブルサ市はイスタンブールから南へ約100kmのトルコ北西部の都市でオスマン朝の首都で「緑のブルサ」と呼ばれる自然豊かで商工業の盛んな都市です。ニフェル区の人口は約36万人で、現在も拡大を続けているブルサ市の中心区です。

安楽さんは60歳で定年退職してから16年の日本語指導歴があり、東海市の姉妹都市のトルコのブルサ市ニフェル区でも日本語指導活動をされました。

2010年に行われた「トルコにおける日本年」事業でニフェル区を訪問し、非常に親日的なトルコの人々との交流を通じてトルコの人々との友好の絆を次世代に引継ぎたいという熱い思いに駆られ「日本語教室」をニフェル区で行う決意をしました。帰国後、トルコでの日本語教室開講への地元の協力は得られなかったが、2011年4月に個人として日本語教室を行う決意をして、ニフェル区に押しか

け、幸いニフェル区の支援を受けることが出来て、参加者募集を行ったところ30名の応募があり日本語教室を開講が可能になりました。

日本語教室の受講者は社会人、主婦、学生等で勉強に熱心でした。教室は9月末で終了したが、続けて勉強したい人のためにインターネット等での勉強方法の情報提供を行いました。受講者とは教室以外でも旅行や買物、食事等と一緒に楽しみました。それだけに別れが辛く、帰国してから、また皆さんと会いたい思いが強くなりました。

その内に教える充実感と感動、受講者との交流の楽しさが忘れられず2013年6月にニフェルに訪問して再び日本語教室を行いたいと先方に提案して、先方には快諾されて、11月から本年4月までの6ヶ月間再び日本語教室を行いました。



【写真】日本語教室の受講生達

海外からのお客様紹介

2014年9月30日イスラエルから陶芸家のRavital Barlevさんが来訪。Ravitalさんは2006年にIWCAT(とこなめ国際やきものホームスティ)に参加し、今年の国際陶磁器コンペティションに入選しました。常滑では2006年のホストファミリーを訪ねたり、IWCATの関係者や友人に会ったり、多治見のセラミックパークMINOの国際陶磁器展を見学したりしました。別のグループで常滑に来訪したイスラエルとフランスの陶芸家とも常滑で交流し10月9日にセントレアから帰国しました。



【写真】国際陶磁器展に出品した作品(後ろ左側)

2014年10月8日フランスとイスラエルから陶芸家が来訪。フランスからは2003年にIWCAT(とこなめ国際やきものホームスティ)に参加したPatoricia Cassoneさん、イスラエルの二人はPatoriciaさんの友人でイスラエルで一緒にグループ展をしたことのあるShamai Sam Gibshさんと

Shulamit Teiblum-Millarさん、三人は常滑のギャラリーセピカで作品展を行いました。

PatoriciaさんはIWCATの後もたびたび常滑を訪れていて「フランスの私の故郷より常滑の方が友達や知人が多い、常滑は私の第2の故郷」と友人達との交歓を楽しんでいました。

またPatoriciaさんは未来絵の作品については「常滑国際交流協会のメールで60周年事業として制作していることを知っていたが、とても良く出来ていて、特に小学生と市民の共同作業で制作されたことが素晴らしい」と感想を語っていました。

イスラエルの二人は常滑の後、京都、奈良など日本の観光に、Patoriciaさんは台湾で行われる陶芸の行事に参加すると常滑から発って行きました。



【写真】セピカでの展示作品の前で。



【写真】常滑市役所前に設置された市制60周年記念事業の未来絵プロジェクトの作品の前で。

メキシコ派遣を終えて

大野小学校国際交流実行委員長 江本智子

今年度の大野小学校の派遣交流事業は、昨年度受け入れをしたメキシコ・ブエナティエラ校で、8月9日から8月26日までの18日間に渡って行われました。

派遣団6名の児童は、再会できる喜びを胸に、日本の文化を伝えるため、英語の勉強やカルチャーショーの練習に一生懸命取り組みました。その頑張りがメキシコの子どもたちに届いたようで、カルチャーショーは大変喜んでもらえたと聞いています。

リーダーの先生方には派遣前は熱心に指導していただき、メキシコでは親代わりとして、派遣団の心の支えとなっていただきました。また TSIE の皆さま大野小学校の先生方には、いつもご協力を賜り、壮行会、帰国報国会では、派遣団の自信を深めていただきました。心より感謝申し上げます。有難うございました。

派遣団としての経験が、今後大きな力になることを願っています。

今後も実行委員会では、学校と連携して、子どもたちの国際交流活動がより充実するように取り組んで参ります。



行ってきました！メキシコ / トーマス・アルバ・エジソン校！

2014年8月8日～8月29日 常滑東小学校
児童6人とリーダー2人を派遣しました。



6年 岩田ほのか

メキシコの挨拶はハグをしたまま口で「チュッ」と音を出す。日本との習慣の違いに最初は戸惑ったが、リーダーの先生にアドバイスをもらい、気持ちを切り替えた。するとどんどん楽しくなっていた。言語はスペイン語か英語だったので、ホストとコミュニケーションをとるのに必死だったが、ホストは大丈夫、と優しく言ってくれた。言葉が通じなくても、心はつながっていると思った。そしてメキシコ滞在中は、自分で出来る事は人に頼らず、また何にでも挑戦することを心掛けた。心も体も少し強くなったと思う。

今回、派遣に参加して挑戦することの大切さをあらためて強く感じた。ホストや友人とは、帰国した今も連絡をとりあっている。再び会えるのがとても楽しみだ。

最後に・・・応援してくれたたくさんの方に感謝します。
本当にありがとうございました！！(^*^)

6年 上野佑真

僕は、もう一度メキシコに行きたくなるような経験をたくさんしました。リチャードはアメリカンフットボールのチームに入っていて、到着した次の日に試合を見に行きました。チームが優勝したので僕も祝勝会に参加しました。エスタディオ・ウニベルシタリオという大きなスタジアムでサッカーの観戦もしました。リチャードとは一緒にサッカーをして仲良くなりました。メキシコでたくさんの人と友達になれて嬉しかったです。

6年 森下紗羽

私はこの夏、とても素晴らしい思い出ができました。こんな体験はめったにできることではないので、私は派遣生になれてメキシコに行くことができ、すごく幸せでした。

日本とメキシコは環境が全然違って、最初はどうすればよいかわからず不安だったけど、ホストファミリーはいつも私のことを気にかけてくれたり、いろいろなところへ連れて行ってってくれて、日本のことなど忘れるくらい毎日が楽しかったです。

私を家族のように受け入れてくれたホストファミリーに、とても感謝しています。これからも、ずうっともう一つの家族、メキシコのホストファミリーとの絆を大切にしていきたいです。

6年 奥崎明花

海外に初めて行きました。それもメキシコ。日本と違う生活や食べ物を体験しました。最初は不安でしたが、ソフィーやゴンザレスファミリーとは、言葉が通じなくてもすぐに家族のようになれました。すごく毎日楽しく過ごせました。この3週間はあっという間でしたが、私の最高の宝物になりました。将来またメキシコに行って、お世話になったゴンザレスファミリーやメキシコの友達に会いたいです。日本とメキシコはすごく遠い国ですが、この出会いを一生大切に続けていきたいと思います。谷崎先生、まゆこ先生、TSIE、メキシコみんなに感謝します。

Gracias!

6年 水上聖絵

メキシコでの3週間はあっという間にすぎました。一番の思い出は色々なピラミッドが集まったテオティワカンです。とても暑い日でたくさんの階段があり、足を乗せる幅はせまく、段差がバラバラで大きく登るのがとても大変でした。

到着翌日の歓迎会での「ピニャータ」という人形の形をしたお菓子入りくす玉割りでは、順番に棒でたたき割り、中のお菓子を取り合ったり、簡単なボウリングゲームなど楽しかったです。

日常生活では、日本とはかなり違うことが多く戸惑いました。お風呂にバスタブがないことや、トイレがシャワーと同じ部屋にあったり、つかったペーパーはゴミ箱に捨てる習慣とか、食事の時間は1日4回もあったり、と驚くことがいっぱいでした。この3週間は夢のような時間でした。

5年 田上ベガ

ホストからの手紙！ 「田上家のみなさま」

ベガは本当に素晴らしい子です。私たちは、ベガと出会えて、また、ベガの家族のあなた方と出会えてとても幸せに思います。今回の出会いは私たちの人生を大きく変えたものでした。この関係が未永く続くことを心から願っています。すぐにもベガに会いたいし、私たちはいつでもベガのことを考えています。ベガ、こちらに来たいと思う時は、いつでも帰って来ていいということを忘れないでください。いつでも大歓迎だから。みなさんは本当に素敵なご家族だと思います。私たちはベガのことを忘れません。～ Gaby・Montse・Marco and Boo～

メキシコに行って貴重な体験ができてよかったです。今度は家族で行ってみたいと思います。 ☆ベガ☆

常滑東国際交流委員長 磯崎雅美

今年度の派遣事業は誰一人病気になることなく、またホームシックになることもなく、とても楽しく有意義な3週間を過ごすことができました。これはリーダーの温かい心遣いそしてメキシコのホストファミリーの温かいもてなしがあったことだと感謝しています。

メキシコの音楽団マリアッチを呼んでのウェルカムパーティーをはじめ、チャペルテペック城、人類博物館、グアダルーペ寺院、テオティワカンなどたくさん観光させていただきました。ハグをして頬にキスをするメキシコの挨拶、お風呂とトイレの違い、食事の回数など異文化を体験してきてくれたようです。派遣生にとってこのかけがえのない経験や体験が今後の人生に良い影響を与えてくれるでしょう。素敵な大人になってくれることを願っています。

